2008年1月20日に当会が行なった「北小金の史跡を歩く」の午後の部で、講師が配布したもの

北小金の寺と神社

東漸寺（西山浄土宗）

１．場所

松戸市小金 359　（北小金駅から南へ進み、歩いて約 3 分）

２．創建からの歴史

- 文明 13 年（1481 年)に、増上寺の音誉上人の弟子経誉愚底上人によって、根木内に開かれたのがはじまりという。この経誉愚底上人は俗名長瀬氏、信州あるいは遠州の出身といわれ、鷲野谷の医王寺薬師堂を再建した。戦国時代、第五世行誉吟公上人のときに当地の高城氏とのつながりを深め、小金に移転した。その寺域は広大で、小金大谷口城の出城としての機能をもっていたという。
- 高城胤吉の三男胤知は出家して東漸寺に入り、第七世照誉了学上人となった。高城氏が天正 18 年（1590 年）に小田原北条氏と命運を共にし、戦国大名としては滅亡した後、生実大厳寺の源誉上人によって関東十八壇林が定められ、東漸寺もその一つとなった。照誉了学上人は、慶長 3 年（1598 年）に芝に移り、元和元年（1615 年）には徳川家菩提所である増上寺の第十七世住職となり、徳川秀忠の葬儀の大導師をつとめた。
- このように、東漸寺は徳川家と強い結びつきがあり、徳川家康から朱印地百石を与えられたが、家光の代には三十五石に減らされた。しかし、東漸寺は、他にも寺領をもっていた。また、広大な境内を持ち、多くの建物を擁した。
- 大改修が成就した享保７年（1722 年）には本堂、方丈、経蔵（観音堂）、鐘楼、開山堂、正定院、東照宮、鎮守社、山門、大門その他８つの学寮など、20 数カ所もの堂宇を擁し、末寺 35 ヶ寺を数え、名実ともに大寺院へと発展した。末寺ほか支配下の寺や庵は、江戸後期の文政 3 年（1820 年）には武蔵・下総両国内で 44 ヶ所を数えた。
- 明治初頭には、明治天皇によって勅願所（皇室の繁栄無窮を祈願する所）となった。
- 江戸時代に幕府の擁護を受けた東漸寺も、廃仏毀釈等で、神殿、開山堂、正定院、浄嘉院、鎮守院などの堂宇をなくした。また、学寮およびその敷地は、地域青少年の育成のために寺子屋として利用され、後に黄金小学校（現・小金小学校）となった。

３．みどころ

- 水戸街道から勅願寺の碑をみて、寺に入り、長い参道を歩いていくと、仁王門がある。「仏法山」という扁額は装飾された字でちょっと読めない。緑に包まれた美しい境内は、春は桜の名所として知られている。
- 仁王門からさらに本堂に向かって進むと、中雀門（ちゅうじゃくもん）という山門がある。門をはいるとすぐ右に鐘楼堂がある。正面の本堂には本尊の阿弥陀如来像が安置され、その手前左側には、聖観音像を安置した観音堂と枝垂れ桜がある。本堂右手にある松は亀の松で、元は鶴亀一対だったが、鶴の松のほうが失われ、幹の曲がった変わった姿の亀の松（樹齢４００年以上）のみ残っている。

【竹内廉之助、啓次郎の碑】

幕末は元治元年（1864 年）3 月、水戸藩では武田耕雲斎、藤田東湖の四男、藤田小四郎らを首領とした天狗党が筑波山で挙兵し、各地で兵を募り藩の保守勢力と衝突した。小金の郷士で、芳野金陵の門下であった竹内廉之助、啓次郎兄弟も、この天狗党に参加したが、同年 9 月に啓次郎は戦死、廉之助は捕らえられて蟄居を命じられた。竹内廉之助は、慶応 3 年相楽総三の率いる薩摩藩邸の浪士隊に加わり、それが赤報隊となると、その幹部の一人となり、戊辰戦争を戦った。しかし、赤報隊が偽官軍とされて、小諸藩などの信州の兵に攻められた際に、赤報隊は壊滅、この戦いで廉之助も戦死した。

竹内兄弟の碑は、東漸寺の本堂の向かって左側にあるが、銘は兄弟と交友のあった渋沢栄一が明治 45 年（1912）に記し、建立されたものである。

４．所蔵文化財など

本尊である阿弥陀如来像、聖観音像、釈迦坐像などの仏像や絵画では二十五菩薩来迎図、三尊来迎図、徳川家康公肖像があり、古文書では徳川家康、水戸光圀書簡、高城胤辰、胤則の制札、朱印状写などがある。また浄土宗の宗祖、法然上人所持伏鉦や圓光東漸大師香衣遺像などの寺宝が残る。

本土寺（日蓮宗）

１．場所

松戸市平賀 65　（北小金駅から本土寺参道を北へ進み、歩いて約 10 分）

２．創建からの歴史

- 文永 6 年（1269 年)に、日蓮上人に帰依した蔭山土佐守が狩野の松原に法華堂をたて、建治 3 年（1277 年）に当地の領主であった、やはり日蓮宗の大檀越の曽谷教信とはかって、この地に法華堂を移し、日蓮上人の高弟、日朗上人を招いたのが、本土寺のはじまりという。
- そして、日蓮上人より長谷山本土寺の名前を授かり、下総国守護千葉氏の庇護もあって、かつては日蓮宗の大山として、末寺百数十を数えたが、不授不施の法難に度々会い、また明治維新には廃仏毀釈のために衰微した。この本土寺は平賀家の三兄弟、日朗上人、日像上人、日輪上人のご出生の聖跡と伝えられ、とくに日朗上人は日蓮上人と法難の伝道をともにされたことで有名である。また、**長**谷山**本**土寺、**長**栄山**本**門寺（池上本門寺）、**長**興山妙**本**寺（鎌倉比企谷）と、同じ「長」という字を山号にもち、「本」という字を寺号にもつ、「朗門の三長三本の本山」のひとつに本土寺は数えられている。

3．みどころ

- 一般には「あじさい寺」として知られ、ミニ鎌倉の感もあり、けやき並木の続く長い参道と美しい境内は、人々の安らぎの場にもなっている。
- 赤い仁王門を抜けると境内には、
  本堂、祖師堂、五重塔、開山堂、像師堂、妙朗堂、宝蔵　などの建物がある。

【翁の碑】

この「翁」とは松尾芭蕉のこと。この句碑は、江戸時代の文化元年（1804 年）に行われた芭蕉忌を期して建立されたもの。

碑面には「御命講や油のような酒五升」という句や、芭蕉忌にちなんだ「芭蕉忌に先づつつがなし菊の花」という句が刻まれている。

「東都今日庵門人小金原、藤風庵可長、松朧庵探翠、方閑斎一堂、避賢亭幾来、当山三十九世仙松斎一鄒、文化元子十月建之」とあり、江戸の今日庵元夢の門人である小金の藤風庵可長らが建立したことがわかる。

【秋山夫人の墓】

本堂の東側に、秋山夫人の墓がある。この秋山夫人は於都摩といい、甲斐の武田家家臣の秋山家の出身。徳川家康の側室にして、武田信吉の母である。武田信吉は、家康の五男で、徳川家康が武田の名跡が絶えるのを惜しみ、信吉に武田家を継がせたため、家康の子でありながら、武田を名乗り、小金三万石の領主となった。しかし、於都摩は天正 19 年（1591 年）に 24 歳で病没。武田信吉は病弱で、21 歳で病没してしまった。

4．所蔵文化財など

- 国重要文化財の日蓮筆の「諸人御返事」「大学三郎御書」や県・市の有形文化財となっている「富城殿御返事」「本土寺過去帳」などの古文書が残る。

- 中世の歴史の研究者にとっても、本土寺にのこる過去帳は、さまざまな人名が大名から一般庶民、なかには被差別民であった猿楽能役者まで詳細に記載されていることから、度重なる戦乱や武士たちの動静を含む下総あたりの中世の歴史をひもとく第一級の史料になっている。

慶林寺（曹洞宗）

１．場所

松戸市殿平賀２０９－２

２．歴史

- 大福薬師瑠璃光如来を本尊とする曹洞宗の寺で、山号は熊耳山（ゆうじさん）。戦国時代の永禄 8 年（1565）2 月 12 日、小金大谷口城主の高城胤吉が没すると、その妻は出家し、桂林尼と号し、殿平賀の鹿島神霊のそばに庵を結んだ。その後、まもなく（翌月または翌年二月の胤吉命日という）桂林尼もなくなったので、その子胤辰は母の冥福を祈って花島勘解由を奉行に命じ桂林寺を建立した。
- 天正 19 年（1591）11 月、徳川家康から朱印地十石を寄進され、高城氏ゆかりの寺から脱却し、慶林寺と号するようになった。

３．所蔵文化財など

- 天正 12 年 4 月 11 日在銘の直径 27 センチの太鼓（市有形文化財指定）を所蔵。

太鼓内墨書
「于」時天正十二[甲申]四月十一日」
「奉」寄附」、依」為」浅野対馬守匠手巧妙」、為」末代者[物]也」
「金　風旦庄　熊耳山桂林禅寺住持　大岸舜達(花押)」

92 太鼓

- 桂林尼墓所（市指定史跡）のほか、小金牧の野馬奉行を務めた綿貫氏の墓もある。
  - ＊ 綿貫氏はもとは月見里（やまなし）氏。月見里土佐守政胤が高城氏滅亡後慶林寺に蟄居、その子綿貫政家が徳川家康に召しだされ、野馬奉行を命じられたという。

鹿島神社（殿平賀 180）

常陸国一ノ宮の鹿島神宮を分社したもので、その主祭神である武甕槌神をまつっている。武甕槌神は武勇の神・雷の神として尊崇される。
鳥居の向かって左手には青面金剛の文字庚申投塔がある（寛政十二庚申年建立）。他に弘化四年や大正時代建立の石祠がいくつかあるが、「大山阿夫利神社」「月参講中」以外、碑面が崩壊し文字が判読できない。

大勝院（大谷口１４５－１：新義真言宗豊山派）

外番場の交差点少し手前に看板があり、右折し直進したところに山門がある。
小金大谷口城の東北（鬼門）を守る寺院とされ、境内をはいると鐘楼、昭和 58 年（1983）に再建された本堂がある。
大勝院は、新義真言宗豊山派の寺院で、山号は遠矢山（矢を遠ざけるの意）。
文明 12 年（1480）の開基とも、永正 3 年（1506）の創建ともいうが、根木内城の高城氏の帰依をうけ、もとは根木内の小字・大勝院山にあったが、小金大谷口城の北部郭内に移され、高城氏の祈願所になった。
鎌倉時代の弘安年号をもつ板碑などを含め、南北朝・室町期の板碑多数が所蔵される。

常真寺（大谷口１８：日蓮宗）

道行山常真寺といい、日蓮宗・本土寺の末寺。元和 2 年（1616）の創建と伝えられるが、明確ではない。しかし、寛文年間（1661～1673）以前に成立していたとみられる。観音堂があり、墓地には庚申塔がある。

八坂神社（小金４４３）

ＪＲ北小金駅の南口を出てすぐの駅前交差点のビル（サティ）の前に、「小金鎮守　八坂神社御跡地」の碑がたっているが、かつてこの地に八坂神社があった。現在地には、昭和 48 年（1973）に移転した。
これは京都の祇園社を勧請したもので、古くは牛頭天王社と称して小金の高城氏が信仰していたといわれる。

妙典寺（小金１６８：日蓮宗）

正覚山妙典寺といい、日蓮宗・中山法華経寺の末寺。水戸街道の小金宿本陣跡近くにある。
創建は江戸時代前期の寛永年間（1624～1644）と伝えられ、直井妙典が開山。
この寺で有名なのは、江戸後期文政 8 年（1825）に建立された芭蕉の句碑で、
「志ハらくは　花のうへなる　月夜可奈（かな）」と刻まれ、松朧庵探翠が建立している。

また、住職が所属していた陸軍歩兵第五十七連隊（佐倉連隊）のレイテ戦での戦没者慰霊碑がある。

東雷神社（東平賀２２６－１）

ＪＲ北小金駅から南柏方面に線路沿いに 400 メートルほどいった場所にある。雷神をまつるが、創建は不詳（かなり古いらしい）。
昭和 61 年（1986）の火災で社殿を焼失し、現在の社殿は再建されたもの。また、かつては椎の古木や杉の木立といった極相林が鬱蒼と茂っていたが、現在は残っていない。靖国鳥居と明神鳥居の 2 基の鳥居がある。手水舎は嘉永 9 年（1857）作。江戸時代以前は神仏習合で、対応する寺があったらしい。
境内には青面金剛、二十三夜塔、大杉大明神、香取、鹿島神社といった末社の石祠などが祀られている。